うるわし通信

一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091　奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL：http://lets.some.jp
E-mail：lets@some.jp

平成29年9月

《 文化を通じたまちづくりを進めましょう 》

国文祭（第32回国民文化祭なら2017）・障文祭（第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会）が、全国で初めての合同開催として、9月1日より県内各地域で開催されます。期間は11月末迄で、9月9日には『芸能発祥の地　桜井』（能楽に関するシンポジウムと宝生流による能楽公演）等が市民会館で開催されます。

この公演には、桜井市外山が発祥の地である宝生流家元の宝生和英氏が、能【三輪】を上演されます（有料 当日購入可能）。また、午後１時から行われるシンポジウム「日本芸能発祥の源流を辿る」では、この度重要無形文化財の保持者（人間国宝）に認定された大倉源次郎氏が参加され、「三輪」の小鼓も担当されます。狂言は、茂山千作氏ほか出演の「因幡堂」です。

☆☆☆障害のある人もない人も ともに☆☆☆

併せて現在、障文祭の趣旨に沿って、「文化を考える桜井市民の会」と「うるわしの桜井をつくる会」等を軸に、「卑弥呼の里芸術祭 実行委員会」を結成して、障害者と関係する市内のグループと「たんぽぽの家」との共同の音楽祭開催に向けた取組みを進めております。

「たんぽぽの家」は桜井で誕生して、今や全国規模で、そして世界に向けて障害者の自立した取り組みとして「わたぼうしコンサート」を開催しています。「たんぽぽの家」との合同の音楽活動を、障害がある人もない人も共に、桜井の地において開催していくことの意義は、大きいと考えます。

卑弥呼の里芸術祭　～障害のある人もない人も ともに in　SAKURAI～

日 時　平成29年11月25日（土）　14時00分～16時30分
場 所　桜井市立図書館　研修室１
内 容　コンサート
第1部　ひびき（和太鼓演奏）：チェリーフロッグス（コーラス）
　　庵前通世（ソプラノ）：丸谷千夏（マリンバ）
　　中村真紀子（ピアノ）
第2部　わたぼうしコンサート（たんぽぽの家）

国民文化祭桜井市実行委員会をはじめ、多くの諸団体の後援・協力・協賛を頂き現在準備を進めています。この取組みを今回１度限りのものとするのではなく、継続的な取組みとして障害のある人もない人も ともに生活する地域文化を創り出すようになればと考えています。ご支援・ご協力をお願いします。

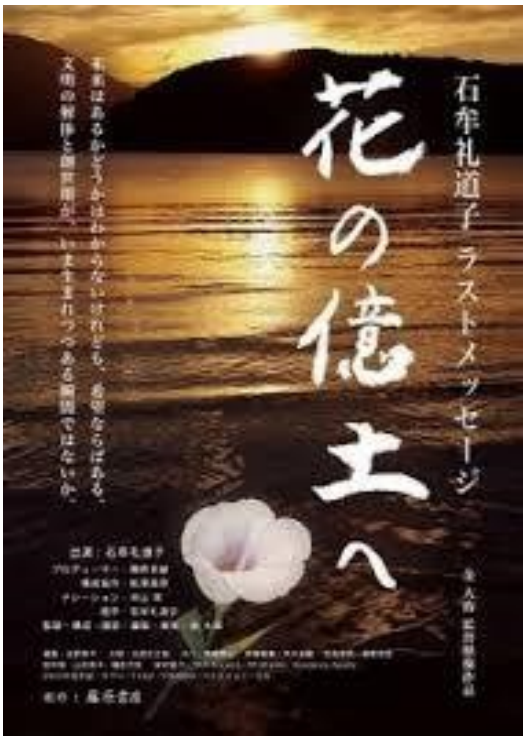
（編集子　楠木克弘）

石牟礼道子の文学世界
ー映像詩『花の億土へ』上映会開催に向けてー

水俣病の公式確認から今年で61年。しかし、世界に類を見ないこの恐ろしい公害病に今もなお苦しむ患者がいる。水俣病はまだ終わってはいない。風化は歴史の慣性であるが、水俣病事件の教訓をこの歴史の慣性にゆだねてはいけない。

水俣病の歴史は、かつて人類が経験した中でももっとも悲劇的で悲惨な歴史であった。天草で生まれ水俣で育った作家石牟礼道子は、その作品『苦海浄土』において、適切な表現方法をもたない患者とその家族のこころの苦しみの一つ一つにことばを与えることで、水俣病事件の残酷さと悲劇性を鮮烈に浮かび上がらせた。『花の億土へ』は、水俣病患者の苦しみに憑依し、その苦しみを想像力の核として自らの文学世界を構築してきた作家石牟礼道子が、その最晩年において、今もなお産業公害や環境破壊に生活の安全を脅かされ、また世界を震撼させた福島の原発事故を経験したばかりの私たちに贈り届けてくれた警鐘と希望のメッセージである。

『苦海浄土』は、一近代化学工場の独善的な企業論理によって普通の人生を生き、あたりまえの生活を送る道を閉ざされ、苛酷で不条理な死を強いられた人々、石牟礼自身のことばを借りて言えば「絶対的な不幸」を背負わされた人々の魂を慰藉救済する鎮魂の曲である。『苦海浄土』を単なるルポルタージュではなくすぐれた支援の文学としたのは、水俣病患者の苦しみを自らの苦しみとして「悶える」石牟礼の義のこころであった。



「海は生命世界の母胎である」と石牟礼道子は言う。水俣の海はかつてその胎内に多様な生命を育み養った。チッソは、水俣の海を陵辱し、そこに生をつないできた生き物たちを途絶させた。『苦海浄土』は近代企業チッソの環境破壊の責任を厳しく問う告発の書でもあった。

近代科学は人間の生活を合理化し豊かにした。この近代科学の発展のうえに文明は築かれた。しかし、文明の基盤をなすこの近代科学は、それまでの人類の歴史が知らなかった非人間的で陰惨な公害を発生させ、人間にこのうえない業苦を課した。石牟礼は「水俣は近代の毒の犠牲になりました」と言う。近代文明の負の遺産を明らかにしその罪過を問う――これが『苦海浄土』のもうひとつの重要なテーマであった。

『苦海浄土』は1969年から2004年まで35年にわたって書き継がれた。水俣病運動の困難で曲折した長い道程を患者たちに同伴して歩んだ文学者石牟礼道子のライフワークである。映像詩『花の億土へ』の中で語られる石牟礼のことばや音楽を背に映し出される不知火海の映像は、『苦海浄土』に展開された言説や叙述と共鳴する。『花の億土へ』のメッセージをよりゆたかに受容するために、『苦海浄土』をこの映像作品の〈前説〉として読むことをお勧めしたい。

（NPO法人コミュニケーション研究センター代表　島岡　將）

シリーズ活動紹介～「柿」についての豆知識～

起原と分布　　投稿　桜井市観光ボランティアガイド 豊村 史郎

カキノキ科カキ属、古くから中国・日本・朝鮮半島に分布し現在はブラジル・イタリア・ニュージランド・イスラエルなど世界的に生産が広がっている。現在の日本の柿は奈良・平安時代に導入されたものから発達したと考えられている。もとは全て渋柿であったが日本の気象条件で突然変異して甘柿に変質したと考えられている。

分類

①完全甘柿：果実の成長段階でタンニン細胞の発育が停止し樹上で自然に渋が抜けるタイプで、夏・秋季の温度が高いことが必要（富有・次郎・伊豆・御所柿）

②不完全甘柿：種子から渋を抜く脱渋物質（アセトアルデヒドやエタノール）が生じて果肉に広がり多量のゴマ斑ができ樹上で自然に渋が抜けるタイプ（西村早生・禅寺丸・赤柿）

③不完全渋柿：種子から不完全甘柿のような脱渋物質を出すがその量が少ない（甲州百目・会津身不知）あるいは種子ができにくい（平核無・刀根早生）などの原因で渋の抜けた果実にならない品種

④完全渋柿：種子から脱渋物質が出ず種子の有無とは無関係に果実着色期に果肉全体が常に渋い品種（西条・愛宕・市田柿）

刀根早生柿

脱渋方法

１）エタノール処理：果実中でアセトアルデヒドとなりタンニンを不溶性に変性させ、舌に渋味を感じなくなる（水溶性タンニンが縮合又は水素結合や疎水結合することにより巨大分子化して不溶性となる）

２）炭酸ガス処理：脱酸素により果肉内でアセトアルデヒドが生成され不溶性のタンニンに変性させる（この時室内の室温は25～26℃に保温）簡易方法としてはビニール袋に渋抜きしようとする柿とドライアイスを詰め密封して５日程置くと同様の結果を得ることができる

３）干し柿：皮をむいて干すことで果実の表面被膜できてアセトアルデヒドが生成されタンニンが不溶性に変性

４）熟し柿：タンニンがペクチンと結合して不溶性に変性

備考　完全甘柿以外の柿は、一旦脱渋されても加熱すると元の渋柿に戻るためジャムの料理には不向き

柿の栄養成分	カリュウム	カロチン	ビタミンC
甘　柿　：	170mg	420μg	70mg
ほし柿　：	670mg	1400μg	2mg

●まもなく美味しい柿のシーズンを迎えます。少々専門的な内容となりましたが、栄養成分満点の「御所柿・富有・刀根早生」等大和の柿をお楽しみください。

キッズガイドの調査報告

7月8日(土)に加西市を訪ね、加西市立北条小学校歴史ガイド隊の活動を見学した。当日は21名(6年生7名、5年生14名)の歴史ガイド隊が、観光客に北条市の羅漢寺、住吉神社、酒見寺を案内。各班7名に分かれ「北条市歴史街道ボランティアガイド」、同校教員のサポートを得て、3か所の社寺を案内する。各社寺ではさらに2～3名の小班に分かれて境内のポイントを説明していく。

説明に詰まった時には仲間が救いの手を差し伸べることもあり、チームワークもよく、全員が地域の歴史に誇りを持ち、笑顔でお客様に接している姿が深く印象に残った。桜井市でも「地域歴史学習会」の延長でキッズガイドの育成を考えていきたい。

五百羅漢(ごひゃくらかん)石仏の説明をするキッズガイド

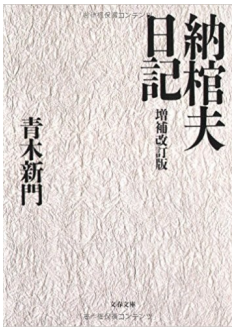
※「北条小学校歴史ガイド隊」は同校小林剛校長から、地域の社会科の勉強ができないかという働きかけがあり、市歴史街道ボランティアガイドの会から「キッズガイド」の提案がされた。平成15～16年を準備期間として、子供たちが地域に愛着を持って、人前で堂々と話ができることを目指し、小学校5～6年生を対象に校区の街並みを散策し、地域の歴史を学ぶ学習会を開催。平成17年度に第1期歴史ガイド隊(6年生女子6名)が発足した。平成29年度には13期生（24名）が誕生。加西市を窓口に北条小学校、市歴史街道ボランティアガイドが協力し取り組んでいる。

桜井 記紀万葉プロジェクト推進協議会　髙瀬安男

お知らせ

●図書館友の会

9月の読書会は、「納棺夫日記」青木 新門／著を読みます。
著者は死者を棺に納める仕事を続けてきた。「生」と「死」を考えるために読み継がれてほしい一冊。・・・　(Amazonカスタマーレビューより)
日　時　9月26日(火)13：30から
場　所　まほろばセンター市民活動交流拠点
問い合わせ先　淺川 肇　TEL：090-1961-6345
友の会会員以外の参加も歓迎します。



【編集後記】 夏の酷暑もやっと峠を越したようで、朝夕は涼しさを感じるようになった。この秋、県内各地域での国文祭・障文祭のイベントや、桜井では9月17日の万葉まつり、 10月14日には土舞台顕彰イベントなど多様な取組みがおこなわれる。ともに参加しさまざまに楽しむ機会としたい。
さて、桜井の地盤沈下が云われて久しいが、桜井駅前周辺の活性化に向けて、北口側では新しくホテル設立の誘致、南口側ではエルト桜井（まほろばセンター）の新規事業に向けた改修が行われようとしている。改修事業の説明会（7/27）に参加すると、是までの事前説明「不足」や改修計画の内容、そして改修後の運営に伴う費用負担等々、参加者の多くから疑問や批判的な発言が相次いだ。活性化への同じ思いを、どのように実現していくかの、市・議会・市民・諸団体等の連携策が問われているように感じる。【K. K】

うるわし通信発行人
髙瀬 安男
TEL:090-1678-9157